

第167回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催いたします。多数ご参集ください。

記

日 時：平成27年5月21日（木）午後4時～

場 所：霞総合研究棟 7階 701セミナー室

1. 演 題：悪性胸膜中皮腫治療に対する新展開－肺実質温存手術
と新規分子標的薬の可能性

演 者：腫瘍外科研究分野 宮田 義浩 准教授

近年社会問題化している悪性胸膜中皮腫（MPM）に対しては、術前化学療法後に切除術を行っているが、その予後は極めて不良である。良な群が存在し、治療効果を予測した個別の制御法開発が急務である。当科では胸膜肺全摘（EPP）を行ってきたが、最近では臓側胸膜の完全剥離切除が可能な症例は根治的胸膜切除／肺剥皮術（P/D）を行っている。その治療成績を概説し、更にはがん幹細胞をターゲットとした新規分子標的薬の開発とその臨床応用、次世代シーケンサーを用いた、抗癌剤耐性メカニズム解明の計画について解説する。

2. 演 題：がん遺伝子 YAP による臓器の 3 次元構築プログラム

演 者：放射線ゲノム疾患研究分野 宮本 達雄 講師

がん遺伝子 YAP は腫瘍抑制経路として働く Hippo 経路を構成する転写因子であり、正常細胞の contact-inhibition（接触阻害）の分子実体として注目されている。これまでメダカ YAP 変異体は重力に拮抗できずに、体全体が扁平につぶれるユニークな表現型（*hirame* 変異体と命名）を示すため、YAP の新機能の存在が示唆された。今回、YAP ノックダウンヒト培養細胞の 3 次元培養を行ったところ、*hirame* 変異体と同様に扁平なスフェロイド形成を確認した。また、YAP の下流遺伝子を DNA マイクロアレイ法で探索した結果、アクチン細胞骨格制御因子 ARHGAP18 を同定した。本研究により、YAP-ARHGAP18 経路は脊椎動物の立体的な臓器を重力から守る共通した分子機構であることが明らかになった。

連絡先： 広島大学霞地区運営支援部総務グループ 082-257-1639（内線 霞 6279）